

序言——大来佐武郎——ivii

バーバラ・ウォードによる序言——xi

謝辞——ixx

序章 日本におけるソフト・パスの可能性——i

## 第1部 概念——29

第1章 エネルギー問題への新たなアプローチ——30

1 解答は技術だ！（しかし問題は何だったのか？）——30

2 古い誤謬と新しい洞察——37

3 個人的メモ——44

4 政策の非対称性——49

5 現状からそこへいかにして到達するか——55

第2章 エネルギー戦略——行かなかった道？——66

1 概観——66

2 ハード・エネルギー・パス——68

3 ハード・パスはなぜ失敗するか——71

4 エネルギー利用効率の改善——75

5 ソフト・エネルギー技術——85

- 6 移行期のエネルギー技術——98
- 7 ロジスティックスと経済学——102
- 8 地政学——105
- 9 政治社会学——109
- 10 いくつかのより根本的な問題——114
- 11 排他性——118

## 第2部 数値——121

### 第3章 エネルギーの将来を探索する手法——122

- 1 「無意味な過去の延長」対「精密な当て推量」——122
- 2 経済学の役割——126

### 第4章 エネルギーの質——134

- 1 計算——134
- 2 解積——144

### 第5章 規模——147

- 1 規模は問題か——147
- 2 送電管理費用——150
- 3 信頼度と間接効果——154

- 4 展開率の比較——160
- 5 規模の社会的意味——165

## 第6章 ハード技術の資本コスト——172

- 1 集中型電力システム——172
- 2 直接ならびに合成燃料システム——182

## 第7章 移行期の技術とソフト技術の資本コスト——186

- 1 移行期の化石燃料システム——186
- 2 風力システム——189
- 3 地球物理と生物転換システム——192
- 4 太陽熱システム——194

## 第8章 資本コストの比較と電力化の役割——201

- 1 資本コストの比較——201
- 2 電力化の役割——206

## 第3部 永続的平和への道——217

### 第9章 政治社会学——218

- 1 エネルギーと社会構造——218
- 2 平等性と政治——226

3 制度的な問題——231

第10章 価値——235

1 手段と目標——235

2 転換——245

第11章 原子力の魔神を再び封じこめる——250

1 魔神はいかにして出現したか——251

2 原子力発電つきの核拡散は可能か?——262

3 原子力発電なしの核拡散は可能か?——267

4 核拡散なしの原子力発電は可能か?——275

5 原子力発電なしの核拡散をもつ必要があるか?——286

あとがき——317

原注——327

用語解説——408

著者について——409

訳者あとがき——410